

平成22年度県立岩瀬高等学校自己評価表

1

目指す学校像	社会人として求められる学力・生活習慣・豊かな人間性を身に付けた人材の育成に努める学校 看護に関する知識・技術及び豊かな教養・情操を身に付けた看護職者を育成する学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>「目指す学校像」に掲げるような、社会に貢献できる有為な人材の育成を目標に学校全体で取り組んできたが、基礎学力の定着及び学習意欲の向上、規範意識の高揚等については、更に継続的な努力を続けていく必要がある。</p> <p>衛生看護科では、病院実習等を通じた現実的な看護職を知り、入学時に抱いていた憧れの看護師観、看護師への希望が揺らぐ生徒が見られた。看護師としての職業意識や使命感の育成に努めることが課題である。</p> <p>また、専攻科では、看護師国家試験の合格率は84.4%であったが、今年度は全員合格を目指したい。</p>	豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」の授業や学校行事等を通して、規範意識や豊かな人間性を培う。 ・「朝の読書」を実施し、豊かな人間性を培う。 ・看護師としての使命感を育てる。 	B	
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導方法を工夫・改善し、分かる授業の実践に努める。 ・学習への目的意識を醸成し、授業や家庭学習に自ら取り組む意欲を育てる。 ・習熟度別授業・課外指導・検定試験等を実施し、学習効果を高める取り組みを推進する。 	B	
	基本的な生活習慣の確立と生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解・実践のもと、端正な身なり・明るい挨拶・時間厳守の習慣を身に付けさせる。 	B	
	部活動・特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やホームルーム活動・生徒会活動を通して、協力する心や責任感を育む。 ・部活動への加入率を上げ、部活動の活性化を図る。 	B	
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路の手引き」等を活用し、生徒一人ひとりのキャリアプランニング能力を高める。 ・進路指導部と学年との連携を強化し、課外・小論文・模擬面接指導等の個に応じた指導の充実を図り、進路の実現を目指す。 	A	
看護教育の充実 ・5年一貫看護師養成教育の充実 ・教科指導及び実習指導の充実、進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・5年一貫を見通した教育活動を展開し、看護に関する知識・技術及び看護職としての職業観の育成に努める。 ・教科指導・実習指導等を通して、看護職としての自覚を促すとともに、職業観の育成に努める。 ・病院・施設の指導者と一体になった効果的な実習指導の展開を図る。 	B		
開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報を積極的に広報するとともに、保護者や地域社会・看護教育機関等からの要望や提言を集約・検討する等、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域社会との信頼関係を構築する。 	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	1 基本的な国語力の向上を図る。	ア 漢字力テストなどの取り組みを通して漢字学習への意欲を高め、漢字力を向上させる。 イ 話すこと・聞くこと・書くことの指導を通して、適切な自己表現力を身に付けさせる。	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字力・基礎力のさらなる向上を目指す。 ・小論文の指導を、学年・学校単位で検討する。 ・質の高い読書指導の方法を検討する。
	2 文意を的確に把握する能力を育成する。	ア 様々な優れた文章に触れさせ、的確に読みとる力を身に付けさせる。 イ 文の組み立て・語句の意味・文法などを理解し、語彙力を豊かにさせる。	B B	
	3 思考力を伸ばし、豊かな心を培う。	ア 様々な文章を読んで、ものの見方・感じ方・考え方を広め深化させる。 イ 朝の読書等を活用し、読解力を伸ばす。 ウ 読書感想文の書き方を指導し、文章の味わいや感動の表現の仕方を身に付けさせる。	A A B	
	4 進路目標の実現を図る。	ア 受験に対応した作文・小論文の指導を行うなど、進路課外を充実させる。	A	
地歴・公民	1 現代社会の基本的な問題について主体的に考える能力を養い、政治・経済・国際関係などについて、社会に適應できる一般常識を身に付けさせる。	ア 時事問題を取り上げ、現代社会の問題やその解決策を考えさせる。 イ 消費者問題など、身の回りで起こる具体的な問題について考えさせる。 ウ プリント学習などを通して、新聞に掲載される略語などを理解できるようにする。	A B B	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の内容をより深く理解することができるよう、視聴覚教材を充実させたい。 ・政治・経済・国際関係などについて、社会に適應できる一般常識を身に付けさせるために、新聞・インターネット等の情報機器の活用を図りたい。
	2 国際社会に生きる人間として各国の地誌、歴史的事象の理解を深めさせる。	ア 日本史や世界史の授業で、地図帳や図版等を用いて舞台となる地域の特徴を紹介する。 イ 中学校での歴史学習の復習をするとともに、歴史的事件の背景とその事件の意義を考えさせる授業を展開する。 ウ 日本史・世界史の相互の関連性を意識した授業を展開し、国際社会に生きる日本人として必要な資質とは何かを考えさせる。	A B A	

数 学	1 授業を大切にし、授業に集中して取り組みませ、個に応じた指導ができるようにする。	ア 少人数の習熟度別学習を取り入れ、個々の生徒の学力差に応じた指導ができるようにする。 イ わかる授業を実践することによって、生徒を授業に集中して取り組ませる。	B	B	・講師の関係で、少人数の習熟度学習を取り入れることができなかった。 ・数学に興味・関心を持たせ、基礎学力をつけさせるため、週末課題、課外、数学検定などを活用する。
	2 基礎的な計算力を身に付けさせる。	ア 朝の課題や授業中の問題演習を通して、計算させる機会を増やす。	B		
	3 家庭学習の習慣を付けさせ、数学に対する苦手意識を減らす。	ア 週末課題の実施により、毎週末の家庭での学習を定着させ、継続的に数学に触れることにより、数学に対する苦手意識の克服を進める。	A		
理 科	1 常識ある社会人としての基本的な学力の向上を図る。	ア 科学の基本的な事項について、習熟できるように繰り返し指導する。	B	B	・引き続き、基本的な学力の向上の育成に努める。 ・個に応じた指導を充実させる。
	2 科学への意識を高め、科学的思考力を身につけられる指導に努める。	ア 最新の科学の話題を積極的に授業に取り入れる。 イ 身近な物質や自然現象を話題として提供し、科学への関心を持たせる。さらに、実験・観察を通して、科学的な見方・考え方を養う。	A A		
	3 個に応じた指導を充実させる。	ア 生徒の進路に応じて、課外を実施するなど柔軟に対応する。 イ コンピュータや視聴覚機器を活用した授業を展開し、興味・関心を持たせる。	B B		
保健・体育	1 基本的習慣の徹底を図る。	ア 服装・集合時間などの基本的習慣を、徹底させる。	B	B	・生徒の健康安全のため、1校時目の体育授業を避ける。 ・生徒の総合的な体力向上実現に向けて具体的な方策を講じる。 ・時間割の調整等の工夫により、体育授業時間が常時50分間確保できるようにする。
	2 基礎体力の向上を図る。	ア 個々に応じた体力向上の方策を検討・実践する。	A		
	3 生徒の自主性を引き出す。	ア 生徒が自主的に実施できるよう指導する。 イ 各自の能力に応じて目標設定し、達成のために努力させる。	B A		
	4 マラソン大会をより充実させ、成功させる。	ア 参加者全員の完走を目指す。 イ 保護者の皆様に協力を要請し、充実した大会になるよう取り組む。	A A		
	5 保健学習を通し、健康的な生活習慣を身につけさせる。	ア 知識を提供するだけでなく、日々の生活で健康的な生活習慣を身につけることができるよう学習を工夫していく。	B		
芸 術	1 多様化する生徒に対応した指導計画の改善を図る。	ア 表現と鑑賞の調和のとれた学習指導に努める。	B	B	・鑑賞の教材を充実させたい。 ・生徒が生涯にわたって芸術を愛好していけるように、指導を工夫する。
	2 多様化する生徒の個性を生かす指導方法を工夫する。	ア 生徒が主体的、創造的に活動できる場を設定する。 イ 各領域の幅広い活動を可能にする多様な題材の設定と教材を工夫する。	B B		
	3 指導に生かす評価を実施する。	ア 生徒自身の自己評価、相互評価を取り入れた評価を行う。	B		
英 語	1 高校英語の基本的な知識の定着をねらい、指導方法を工夫する。	ア 1学年・2学年の少人数クラスでは、きめ細かな丁寧な指導を行い、生徒の実態に応じた授業を展開する。	A	B	・少人数クラスの特徴を生かし、インタビュー活動、ペアワーク活動を積極的にとりいれ、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・各単元の内容をより深く理解することができるよう、視聴覚教材を充実させる。
		イ 初歩的な英文法を定着させるために、重要事項の徹底した指導を行い、ドリル学習・例文の暗唱等を行う。	B		
		ウ ノートの作り方を指導し、予習・復習を促し、重要事項の定着を目指す。	A		
		エ 小テスト・単語テストなどを行い、苦手項目の克服を目指す。	A		
		オ A L Tを活用し、実践的なコミュニケーションの必要性、楽しみを実感させる。	A		
	2 実践的なコミュニケーション能力を育成する。	イ クラスルームイングリッシュを使い、耳から入る英語を増やす。	B		
		ウ リスニング、ペアワーク、インタビュー等の活動を増やし、生徒が主体的に英語を使用する場面を増やす。	B		
		ア 地図・写真・ビデオ等を利用し、各単元に出てくる地域やテーマの背景・状況について理解を深めさせる。 イ コンピュータや視聴覚機器を活用して、異文化に興味を持たせる。	B B		
	3 学習意欲を増進させるように、関心・意欲を高める授業を実践する。	ア 1. 2年生全員に英検を受験させるとともに、英検講座を開設し、合格者数を増やす。 イ 課外授業や補習授業を充実させ、生徒からの質問を促し、自ら学習する態度を育てる。 ウ 外部模試の受験を奨励する。 エ 客観テストのレベルを考慮に入れ、効果的な定期考査の作問をする。	B A A B B		

家庭	1 基礎的、基本的な知識と技術を習得させ、実践的態度を養う。	ア 生徒の意欲的な学習活動を促して、基礎知識を習得させる。 イ ホームプロジェクト学習をとおして、生活課題を見だし、課題解決能力を身につける。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実験実習を取り入れ、生徒の主体的な活動を充実させる。 ・スライドを活用して、視覚的な学習を進める。 ・生活課題の発見につながる指導を工夫する。
	2 作品の完成や提出及び発表により、達成感を養う。	ア 製作及び実習に関しては、完成までのプロセスを重要視し、個人指導を行いながら完成の喜びを体験させ、自己達成感をあじわい生活に生かせる意欲を培う。	B		
	3 生徒の興味・関心に配慮した教材を工夫する。	ア 教材を精選し、生徒が興味を持てる効果的な資料を活用した授業を進める。 イ ワークシートや学習ノートを効果的に活用して、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	A A		
情報	1 コンピュータの活用を通して、情報を適切に処理するための基礎的な知識と技能を習得させる。	ア タッチタイピングを習得して、コンピュータ利用の円滑化を図る。 イ アプリケーションソフト（エクセル・アクセス）を活用し、情報処理能力の向上を図る。また、情報処理検定3級取得を目標として、活用能力の定着を図る。	B A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピング修得への意識の高揚
	2 情報モラルについて考えさせ、情報の適切な扱い方を学ばせる。	ア インターネット等を通して、情報の扱い方や情報モラルを学習させる。	B		
商業	1 商業デザイン・情報処理の基礎的な知識・技術の習得、及びビジネスの諸活動に活用する能力を育成する。	ア ビジネス活動における基礎的・基本的な技術を習得させ、その上に立った授業展開を工夫する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・商業教育の基礎から専門までの指導を充実させる。また、検定試験の上級取得を目標とする。
	2 ビジネス諸活動におけるマルチメディアに対応した図形・画像・音声情報などを利用した広報文書の作成、情報通信ネットワーク活用、プレゼンテーションに関する知識・技術の習得を図る。	ア ビジネスで役立つ検定に取り組むことで、商業教育への興味・関心を喚起する。 (ア) 全商ワープロ実務検定3級を3年Dコースと2年生徒の全員合格を目指す。 (イ) 全商ワープロ実務検定1・2級、全商情報処理検定3級の3年Cコースの全員合格を目指す。 (ウ) 全商情報処理検定3級の3年生Bコースの全員合格を目指す。 イ インターネットに関する知識やプレゼンテーション能力等を高める。	A B		
衛生看護科	1 看護師資格試験合格率100%を目指す。	ア 生徒の目的意識の継続を図るため、生活指導・学習指導の在り方を検討する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の理解度に合わせた教材研究および計画的・効果的な授業内容・進度を熟慮し、授業の充実を図っていきたい。 ・生徒が課題レポートや課外に積極的に取り組み、期限を守り提出等できるように指導していきたい。 ・看護学生としての自覚を促し、臨床実習においても欠席することなく主体的に取り組む姿勢を育むよう指導していきたい。
		イ 教員と外部講師が協力して、国家試験に効果的に対応する授業を行う。	B		
		ウ 1年から課題を与え、予習・復習等を奨励し、家庭等における自学の習慣を付けさせる。	B		
		エ 生徒に対し、課外や補習への積極的な参加を促す。	B		
		オ 模擬試験を実施し、試験に対する対応力を身に付けさせる。	B		
		カ 高校の総まとめとして3学年で到達度試験を実施し、全員合格できるような指導に努め、生徒の知識・技術の定着を図る。	B		
		キ 教科指導や戴帽式等の行事を通して、あるべき看護師像を考えさせることにより、看護科生徒としての自覚を高める。	A		
	2 臨床実習が円滑に運用できるようにする。	ア 生徒の実態や、実習受け入れ施設の意向を踏まえた実習記録の検討を行う。	A		
		イ 看護実習生としての自覚を高める指導を徹底し、実習施設での実習状況・環境が良好になるように努める。	B		
ウ 施設の特長を生かした実習が実施できるよう、事前の施設との打ち合わせ、生徒のオリエンテーションを徹底する。	A				
エ 実習施設の状況に応じ柔軟に対応できるように、実習施設との連携体制を整える。	A				
オ 実習施設との連絡・連携を密にし、滞りなく実習が行えるようにする。	A				

専攻科	1 責任ある看護師として活躍できる生徒を育成する。	ア 授業を効果的に展開し、内容の理解を進めるために、臨地実習の日程を踏まえたシラバスを作成する。	B	B	・臨地実習の日程を踏まえた効果的な校内実習および記録指導について確認していきたい。 ・課題提出の期限を守り、自ら学ぶ姿勢を育むとともに、看護師の在り方・職業観の育成にあたっていきたい。
		イ 外部講師との連携を図りながら、効果的な授業の実施に努める。	B		
		ウ 教材研究を十分に行い、授業の充実を図る。	B		
	2 看護師国家試験合格率100%を目指す。	ア 模擬試験を実施する。(1年5回程度、2年12回程度)	A		
		イ 国家試験対策ガイダンスを実施する。	A		
		ウ 病院側指導者と指導者会議等を通して共通理解を図り、連携した指導を行う。また、病院の担当教員を決め、実習目標にあった指導を行う。	B		
	3 看護師としての職業観の育成を図るとともに、社会人としての自覚を促す。	イ 実習記録の期日指導を通し、生徒が実習の理解を深められるように指導する。	B		
ウ 実習施設との連絡・連携を密にし、滞りなく実習が行えるようにする。		A			
エ 看護師としてのマナーが身に付くように、生活指導の充実を図る。		B			
4 5年一貫看護師養成教育の円滑な運営を目指す。	ア 5年一貫体制においての校外実習・行事等の具体的な在り方を検討し、円滑な取り組みを目指す。	A			
教務部	1 各部・各教科等との連絡を密にし、諸行事の円滑な運営を推進する。	ア 運営委員会を有効に活用し、毎月各分掌の部長と行事予定等の連絡を取り合い、確認する。	A	B	・シラバスの内容の充実をはかる。 ・自習時間を減らすため、各教科と調整を密にしていきたい。 ・広報活動を充実するため、情報管理部との連携を高めていきたい。 ・校内研修の内容を検討して参加率を向上したい。 ・生徒に学習の習慣を身に付ける方法を開発していきたい。
		イ 出張年休を早めに把握し、他の曜日との振替を積極的に行い自習時間を減らす。	A		
	2 授業確保のため、出張・年休時の授業の振替、填補を確実に実施する。	イ 分割授業の授業交換において、振替が難しい場合は、もう一人の教員が授業を実施する。	A		
		ア 指導方法の改善に関わる外部講師による校内研修会や、模擬授業を実施する。また、校内授業公開を充実させる。校内研修会の参加率は80%を目標とする。	B		
	3 生徒の学習理解度を分析し、効果的な指導法を研究し実践する。また、学習習慣の定着を図り、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。	イ 生活実態調査を実施することによって、生徒の家庭学習時間を把握し、きめ細かな指導を行う。	B		
		ウ 全教科科目の学習方法をシラバスに掲載し、自学自習の一助とする。	A		
		ア 広報紙「岩高NOW!」については、各号のテーマを決め、アンケートや調査を行い、紙面の充実を図る。	B		
進路指導部	1 生徒の進路意識を高められるよう、ホームルームなどの指導や進路ガイダンスの充実を努める。	ア 学年と連携し、1年生からの進路の手引きなどの利用を図り、ホームルームその他で活用して、自己理解・職業理解・進路選択・進路決定に役立てる。	B	B	・1年生からの継続的な進路学習をすすめ、キャリア教育の充実を図る。 ・進学・就職のそれぞれの希望が達成できるような学力や能力を身につけられるよう、多様な取り組みを行う。 ・生徒(保護者も含めて)の進路意識を高め進路選択・進路決定がスムーズに行えるように援助や相談に取り組む。
		イ 1年生から進路ガイダンスや見学会・模擬授業などを学年と連携しながら計画的に行い、進路を意識させる指導を継続して実施する。	A		
		ウ 基礎学力検査を複数回実施し、学力の向上やクラス面談などに生かしていく。	B		
	2 進路実現のための学力・能力が身に付くような指導の充実を図る。	ア インターンシップを希望者に実施し、就業意識や進路目標の設定を促す。	A		
		イ 課外・模擬試験などを計画的に行い、学力の養成に努め、進路実現に努める。	B		
	3 進路選択や決定への援助に取り組む。	ア 模擬面接や面談、作文・小論文などの指導を通して、コミュニケーション能力(挨拶・会話・文章を書く力等)を養えるよう、継続的に指導する。	A		
		イ 企業訪問を実施して求人開拓に努め、生徒への指導に生かす。	B		
ウ 進路相談や面談を密に行い、学年や他の分掌とも連携しながら進路選択・決定への手助けを行う。		B			
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立を図る。 2 高校生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれるようにする。	ア ネクタイ・パ・タイなどの身だしなみを整え、本校指定の制服を正しく身に付けさせ、規範意識を確立する。	B	B	・生徒の規範意識の向上を目指す。
		イ 生徒指導に関する教員間の認識を統一する一つの方策として、朝の立哨を継続して実施する。	B		
		ウ 特別指導の減少を目指し、学年・担任を中心に生徒の実態に応じてきめ細かな指導を行う。	B		
		エ 校内研修を行い、教員間の更なる共通理解を図るとともに、生徒の実態に応じた効果的な指導方法を学校全体の取り組みとして考える。	B		
特活部	1 自主的活動により行事やホームルームを中心とした生徒会活動が活発化して、学校全体の活性化に繋げていけるよう指導に努める。	ア 各種行事の準備・運営ともに生徒会・各種委員会を中心となる活動をする。	B	B	・各種行事をさらに精査して、より充実したものにす。
		イ 部活動への加入を促進し、学校活性化に繋げる。	B		
		ウ 学年・クラスごとにHR年間計画を作成し、活動の充実を図る。	B		

保健厚生部	1 健康に興味関心を示し、自己の健康状態を正しく把握できるよう努める。	ア 健康診断・身体測定などの実施、事後指導の徹底を図る。	B	B	・清掃を徹底させ、美化意識を生徒一人ひとりに持たせ、生活・学習環境の向上を図る。
		イ 健康相談を実施し、予防のための情報を提供する。	A		
		ウ カウンセリング体制の整備と、カウンセラングルームの積極的な活用を図る。	A		
	2 校舎内外の美化に努めるとともに、通学路を中心とした地域の美化に努める。	ア 清掃区域割り振り計画の策定と清掃用具の調達を行う。	B		
		イ 学期末大掃除を実施する。	B		
		ウ 地域の美化計画に協力し、地域住民と関連した美化活動に努める。	B		
3 防災意識の高揚及び災害時の安全迅速な避難及び行動ができるように努める。	ア 積極的・自発的な避難訓練を実施する。	A			
	イ 消火器等の基本操作を学び、的確な消火活動ができるように努める。	C			
情報管理部	1 新成績処理システムの円滑な導入を図る。	ア 新しい成績処理システムの円滑な導入に向け、研修等を行う。	A	B	・DNS等サーバの導入 ・成績処理システムの拡充 ・成績処理システムを稼働させるためのコンピュータの更新
	2 魅力あるホームページを作成する。	ア 本校の教育活動の様子を校外の人に伝えられるよう、各行事等の情報をホームページ上で適宜更新する。	A		
	3 学校へのメールに対応する。	ア 学校へのメールを各部署に速やかに通知し、返信が必要な場合は、各部署からの返信を行う。	A		
	4 視聴覚室・準備室・コンピュータ室・学習室のパソコンを管理する。	ア 生徒・職員の要望に応じられるよう、整備・充実を図る。	B		
	5 職員研修の実施	ア 情報セキュリティに関する意識の向上させるために研修会を実施する。	C		
図書部	1 図書館の環境整備を行う。	ア テーマ別コーナーの設置に伴う蔵書整理を行う。特に、進路コーナーの資料の充実を図る。	A	B	・読書の質の向上 ・読書感想文の指導を国語科と連携し、向上を図る。 ・LHRでの、集団読書の実施 ・図書委員会主体の活発な活動
		イ 季節ごとのディスプレイ表示を行う。	A		
		ウ 廃棄及び波及を適切に行う。	A		
		エ 教員のための研修・会議の場としての環境を整える。	B		
		オ 教員のための研修・会議の場としての環境を整える。	B		
	2 豊かな人間性の育成を図る。	ア 図書館便りを充実させ、図書館利用の活性化を図る。	B		
		イ レファレンスサービスの推進（生徒及び教員）を図る。	A		
		ウ リクエスト・予約サービスを活用する。	A		
		エ LHRでの図書館ガイダンス及び集団読書の設定をする。	B		
		オ 「朝の読書」の充実を図る。	A		
3 図書委員会活動の活性化を図る。	カ 読書推進運動（読書感想文優秀賞・感想画表彰・多読賞表彰）を行う。	A			
	ア 昼休みのカウンター当番を充実させる。	A			
	イ 図書館の広報活動・教養講座・文学散歩・古本市の企画など、活動内容を明確にし、活動の充実を図る。	A			
	1 PTA活動の活発化に努める。	ア 育成・研修・広報の専門部を軸とし、各種行事に多数の保護者が積極的に参加できるように働きかける。	B	B	・PTA会長の選出方法について協議していく。
		2 PTA役員・保護者との緊密な連携を図る。	ア 評議員会等において、保護者からの率直な意見を出してもらいながら、話し合いの機会を充実させる。		
第1学年	1 基本的な生活習慣を確立する。	ア 欠席・遅刻・早退をしないように指導する。	A	B	・服装指導が徹底するように、さらなる工夫を凝らす。 ・進路意識を高め、自分にあった職業について考えさせる。 ・進研模試、各種資格取得に積極的に参加させる。 ・家庭学習を習慣づけさせる。
		イ 頭髪服装に関し、学年全体できめ細かな指導を行う。	B		
	2 基礎的な学力を身に付ける。	ア 授業を真剣に受けることを機会あるたびに指導する。	B		
		イ 補習授業には必ず出席させる。	B		
		ウ 提出物、宿題を必ず提出させる。	A		
	3 道徳性を身に付ける。	ア 道徳の授業において、1学年全体で生きる力・思いやりを持った人間の育成を目指す。	A		

第2学年	1 基本的な生活習慣を確立する。	ア 遅刻の多い生徒に対して、放課後の清掃活動や面談等を行い、遅刻を少なくする取り組みを実践する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻常習者に対する指導が十分にできなかった。 授業に集中できない生徒に対する指導が徹底できなかった。 家庭学習の習慣づけがなかなかできず、基礎学力が定着していない。 成績上位層の生徒をいかにのばしていくかが今後の課題である。
		イ 頭髪服装に関し、学年全体できめ細かな指導を行い、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。	B		
		ウ 社会・学校のルールを遵守出来る生徒を育てる。	B		
	2 基礎学力の定着と応用力の育成を図る。	ア 日々の授業に集中させ、課題等の提供により家庭学習の習慣化を図る。	B		
		イ 進学課外や模擬試験への積極的参加を促し、応用力の育成を図る。	B		
	3 進路意識の向上と進路希望の明確化を図る。	ア 進路指導部との連携を密にし、進路関係行事への積極的参加を促す。	A		
		イ 進路情報を積極的に提供し、面談を充実させて進路目標を確立させる。	B		
	4 修学旅行を成功させる。	ア 総合的な学習の時間やLHR等を通して、事前・事後の学習を充実させることにより、実り多い修学旅行とする。	A		
イ 旅行を通して、規律ある集団行動の大切さを学ばせる。		A			
第3学年	1 基本的な生活習慣の確立 (最高学年の生徒としてふさわしい規律正しく節度ある生活習慣の確立)	ア 最高学年としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣や規範意識の確立に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数を減らす工夫を考える。特に常習者への指導方法。 計画的、継続的に基礎学力向上を目指した具体策を全体で実施する。
		イ 生徒の観察や相談等を通して生徒理解に努める。	A		
		ウ 欠席・遅刻・早退の状況を把握し、個別指導を実施する。	A		
		エ 正しい言葉遣いや態度、服装・頭髪等の指導の徹底を図る。	B		
	2 進路実現のための学力向上	ア 進学・就職に対応できる能力を養成する。	A		
		イ 朝の勉強会を実施し、学習習慣を身に付けさせる。	B		
		ウ 社会のしくみを知り、自分の果たす役割について考えさせ、社会人としての第一歩を踏み出す下地をつくる。	B		
	3 HRの充実	ア 声かけや面談等を通して、円滑な学級経営を図る。	A		
		イ 行事への積極的な参加を促し、クラスへの帰属意識を高め、まとまりのある学級経営を目指す。	B		
	4 保護者との連携	ア 保護者面談や懇談会を通して、保護者との共通理解を図る。	A		
イ 家庭との連絡を密にして、意志疎通を決め細かく行い、必要に応じて家庭訪問を行う。					

評価基準： A：十分できた。よい結果が出ている。うまくいっている。

C：やや不十分である。努力を要す。

B：よい。まずまずの結果である。

D：不十分である。かなり努力が必要である。